



とよやま子ども記者プロジェクト



8月5日（水）、豊山町が実施する「とよやま子ども記者プロジェクト」に協力し、プロジェクトに参加する豊山町の小学生の皆さんが小牧基地を訪れました。本プロジェクトは、「知られざる豊山町の魅力に迫る!! ふつうは入れない裏側に潜入し、みんなの『知りたい』を取材する」をコンセプトに、町内の企業や施設等を取材し、その内容を新聞記事として発表する体験型学習です。

小牧基地では、KC-130H輸送機の見学や管制業務の紹介を通じて、航空自衛隊の任務や役割について学んでいただきました。

参加した児童たちは、普段立ち入ることのできない基地内の施設や航空機に興味津々の様子で、隊員への取材では積極的に質問を行うなど、熱心に取材活動に取り組んでいました。また、取材を通じて得た学びや発見を児童たち自身の言葉でまとめた記事は、9月末まで豊山町役場等で掲示され、多くの方々に紹介されました。小牧基地では、今後も地域との連携を深めながら、次代を担う子どもたちに航空自衛隊への理解と関心を深めていただけるよう、積極的に広報活動を推進してまいります。



防衛・基地モニター小牧基地研修

8月31日（月）、防衛・基地モニターを対象とした小牧基地業務群研修を実施しました。

本研修は、航空機の運航支援や施設の維持管理など、基地機能を維持・運営するための多様な業務を包括的に行う基地業務群の各部隊を紹介し、その役割や機能について理解を深めていただくとともに、基地運営全般への理解を促進することを目的として実施したものです。はじめに、管理隊警備小隊において警備犬の訓練展示を見学しました。その後、管理隊が担う航空輸送業務の概要や、航空機への貨物搭載に使用するハイリフトローダーについて説明を受けました。続いて飛行場勤務隊では、飛行管理業務について説明を受けた後、基地マイクロバスに乗車し、タクシーウェイ点検の模擬体験を行いました。施設隊消防小隊では、空港消防業務の説明を受けるとともに、1万リットル級救難消防車をはじめとする各種装備品を見学しました。

昼食は隊員食堂において体験喫食を実施し、午後からはサイバー運用隊、衛生隊、会計隊及び業務隊において、それぞれの任務や業務内容について説明を受けました。

参加者の多くは、「航空自衛隊といえば航空機の運用」というイメージを持たれていましたが、今回の研修を通じて、基地運営や隊員の生活基盤を支える基地業務群の重要な役割について理解を深めていただくことができました。各研修先では積極的に質問をされる姿が見られ、隊員との活発な意見交換を通じて高い関心がうかがえました。小牧基地では、今後も部隊や隊員と直接触れ合う機会を設け、航空自衛隊及び小牧基地に対する理解をより一層深めていただけるよう努めてまいります。

